


# 11がっのくもの子の会だより

<H.26.10.27>

月日が過ぎるのは、ほんとに早いもので、今年もあと2ヶ月と少しです。少しづつ寒さがやってきましたが、残りの秋をしっかりと味わいたいですね。秋晴れの空の色、木々の葉がかわっていくさまなど、目で感じる秋もなんともきれいでいいものですね。

小さな森のこども園の子ども達も、年中、いろんなところに出かけはいます。今月も、自然の中に出かけ、秋ならではの収穫やあそびをたくさんして、11月を満喫する予定でいっぱいです。まずは、2日(日)のうんどう会で、外の空気をたくさん吸って、思いっきり身体を動かして楽しもうと思っています。

 <やり抜ける子は、問題を解く快感を知っている!>  
人は、楽しいことなら時間も気にせず没頭できる生き物です。楽しい、面白いという感覚は、何かを続けていくための大きなエネルギーになります。

子どもたちは、好奇心のかたまりです。好奇心というアンテナをわざと、何かないかと探しています。楽しそうと思えば飛びつき、満足するまで没頭します。

メシが食える大人は、活力にあふれています。何かが起これば身を参じ、気になることがあれば議論し調査し、事件が起これば自分のこととして考えています。

何に対しても面白がり、興味を持つ、それは、人生を豊かにする秘訣です。



こうした女子好奇心は、習慣によって伸ばす事ができるものです。日々何かに興味を抱き、それによって楽しい経験ができれば、考えることが好きになっていきます。



考えるということは、いつでもどこでも行っているもの。「どうして空は青いのか」「どうやって電車は走っているのか」という不思議を日々感じ取れる子の顔は、キラキラ輝いているのです。



子どもの好奇心が育つためには、感じたことをのびのびと行える環境が必要です。没頭することも、興味を持つことも、思う存分やれた子が、大人になっても魅力的で素敵な考え方ができるのです。



自然と人が集まり、求心力があり、魅力的な人というものは、そういうものでしょう。



面白から考える大人になるためのポイントは、感性豊かに過すこと。考え、行動することで達成感を得ること。



面白いと思うことを、存分に行うこと。



子どもの感性は、丁寧で、大人がかたわらない純粋なものです。その感性を日々洗練させ、受け止めてあげること、面白から考える子を自然と習慣として行えるようになるでしょう。

<「メシが食える大人」に育つ子どもの習慣を!>